

| |
|------------------|
| 留 学 報 告 書 |
|------------------|

記入日:2020年1月31日

| | |
|--------------------------|---|
| 所属学部／研究科・学科／専攻 | 文学部文学科文芸メディア専攻 |
| 留学先国 | イタリア |
| 留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語) | 和文: ヴェネツィア大学 現地言語: Università Ca' Foscari Venezia |
| 留学期間 | 2019年9月～2020年2月 |
| 留学した時の学年 | 2年生(渡航した時の学年) |
| 留学先での学年 | 年生(留学先大学で在籍した学年) |
| 留学先での所属学部等 | <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。 |
| 帰国年月日 | 2020年2月1日 |
| 明治大学卒業予定年 | 2022年3月 |
| 留学先大学について | |
| 形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他 |
| 学年暦 | 1学期: 2学期:9月上旬～2月上旬(追試になった場合は、1月中旬～2月上旬に再度試験を受けるようです) 3学期: 4学期: |
| 学生数 | 19,000人 |
| 創立年 | 1868年 |

| 留学費用項目 | 現地通貨 (ユーロ) | 円 | 備考 |
|-------------|---------------|----------|--|
| 授業料 | 0 | 0円 | 大学間協定留学だったため、明治大学に対する通常授業料のみでした。 |
| 宿舍費 | 1,750 | 210,000円 | ガス代、光熱費、水道代は別でした。 |
| 食費 | 200 | 24,000円 | 他の日本人留学生よりも、自分は食費にお金をかけていた方だと思います。自炊はほぼ毎日欠かさずしていました。 |
| 図書費 | 0 | 0円 | |
| 学用品費 | 50 | 6,000円 | イタリア語の教科書、ノート代です。 |
| 携帯・インターネット費 | 91 | 10,920円 | Vodafoneの初月31ユーロ、毎月15ユーロで30GBのプランでした。 |
| 現地交通費 | 0 | 0円 | 大学まで、片道で徒歩40～50分(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車) |
| 教養娯楽費 | 100 | 12,000円 | 美術館、教会の入館料。 |
| 被服費 | 0 | 0円 | 洋服類は一切買い足しませんでした。日本から持ってきた上5着、下3着、コート1着で5か月過ごしました。こちらの洋服は、縫製が良くないです。どのみち帰りは荷物が多くなり、洋服全ては持ち帰れないので、何枚も洋服を買う必要はないと思います。 |
| 医療費 | 200 | 24,000円 | 目の検査と盲腸で2回救急病院に行き、1回入院し、盲腸による嘔吐とアックア・アルタによる爪周炎で、1回ずつ往診医にかかりました。 |
| 保険費 | | 73,285円 | 形態:全額保証 |
| 渡航旅費 | | 190,000円 | 復路の日程変更代の2万円も含めています。 |
| ビザ申請費 | | 0円 | 2019年7月時点では無料でした。 |
| 雑費 | | 円 | |
| その他 | 120 | 14,400円 | ベルメツソ・ディ・ソツジョルノ(ビザとは別の滞在許可証)という、イタリアに着いて1週間以内に申請する書類の費用です。年によって値段が変わるようです。 |
| その他 | | 円 | |
| 合計 | 2,511 | 564,605円 | アパートに住む人は、冬場の暖房費用(セントラルヒーティング)がかなり高くなるので、気を付けてください。 |

渡航関連

渡航経路

往路 出発地: 成田空港 目的地: マルコ・ポーロ空港 経由地: イスタンブール空港
 復路 出発地: マルコ・ポーロ空港 目的地: 成田空港 経由地: イスタンブール空港

渡航費用

①往復チケットを購入した場合

航空会社: ターキッシュ・エアラインズ
 料金: 190,000 円(復路の日程変更代込み)

②片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社: _____ 料金: _____
 復路 航空会社: _____ 料金: _____ ∴合計: _____

航空券購入方法

旅行代理店(店名: H.I.S.) インターネット(サイト名: _____) その他(_____)

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート, 大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前: _____) アパート ホームステイ

2) 部屋の形態

個室 相部屋(同居人数 _____)

3) 共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4) 住居を探した方法:

学生寮に入れず、ヴェネツィア大学に留学していた先輩 2 名を頼り、アパートを紹介していただきました(1 人の先輩が当時滞っていたアパートと、同じ大家さんの物件です)。ヴェネツィアは本当に住居を探すのが大変なので、大学から学生寮募集のメールが来たら、すぐに対応することをおすすめします。

5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

同居人のひとりのアメリカ人(同じ大学の大学院生)が、常識や思いやりのない人間で、本当に大変でした。ごみを捨てない、共有スペースの至る所に私物を置く、恋人を長期間滞在させる、勝手に他人の個人部屋に入ってくる、長期間風呂に入らない、洗濯をしない、数か月洗っていない洋服をリビングに放置する、一日中部屋に閉じこもってドラマを大音量で流す、など。まだまだ、挙げればキリがありません。直接注意をしても、大家経由で注意をしても一切変わりませんでした。学生寮は人気なので入りにくいとは思いますが、たとえ相部屋であっても、学生寮への入居を強く勧めます。学生寮の場合であれば、何か問題が起きたら、管理人や大学事務室が対処してくれるようです。また、ヴェネツィア大学側(Housing Office)が紹介する民間のアパートには、違法アパート(難癖をつけて学生からお金を巻き上げようとする)が混ざっており、他の日本人留学生数名が被害に遭っていました。しかし、大学側は一切対応しておらず、トラブルになっていたようです。



現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: Ospedale SS Giovanni e Paolo という 24 時間対応の病院)

2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: 先述した通り、同居人に本当に悩まされました。家族、友人、明治大学の教授に相談しました。解決はしませんでした。ストレスを少し解消できて、本当にありがたかったです。)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

地味な色合いの服装を心掛け、常に防水の防犯ブザーと夜間用ライトを携帯していました。また、現地でダイヤル式の南京錠を買い、貴重品の斜め掛けカバンにつけていました。リュックサックは、一番上にタオルや上着を入れておくことで、開けてもすぐに盗まれないように工夫しました。他の日本人留学生は、買い物中にパスポートを盗まれたり、リアル橋でクレジットカードを盗まれていました。家の立地が本当に良く、生活圏内の治安に関しては全く問題ありませんでした。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

Three というイギリスの会社の SIM カードを、Amazon で購入しましたが、接続が悪くすぐに Vodafone の SIM カードを現地で買いました。ただ、現地の生活に慣れるまでは Three の SIM カードをせひ買ってほしいです。現地に着いてから、Vodafone の SIM カードに切り替えるのがおすすめです。Vodafone は TIM よりも高いですが、トラブル時の対応と通信の接続が素晴らしいです。イタリア国外での接続もかなり良かったです。

5)現地での資金調達はどうに行いましたか? (例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

りそな銀行とスルガ銀行の VISA デビットカードと、明治大学の Master カードを使い、Unica Banca という銀行の店舗内 ATM でユーロをおろしていました。くれぐれも、必ず銀行営業中の、スタッフがいる時間帯に、銀行内の ATM でおろしてください(ATM にカードが吸い込まれたまま、戻らないことがあるため)。これはイタリアで暮らす上での鉄則です。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

①ちびくろちゃん(電子レンジ用炊飯器)②UNIQLO のごくだん③みりん④クックドウの回鍋肉⑤生姜チューブ⑥正露丸⑦貼るタイプのホッカイロです。日本食材は高いですが、ヴェネツィア本島にめんつゆや米が売っている店があります。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)



学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

| | | |
|---|--|---|
| 1)留学先で取得した単位数合計 | | 本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。 |
| 18 単位 | | <input checked="" type="checkbox"/> 5 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:) |
| 2)履修登録の時期・方法及び履修制限 | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input checked="" type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか？ 具体的な人数は発表されていませんでしたが、あまりにも登録希望者が増えたクラスは、事務室の判断で、登録が途中で打ち切りになっていたようです。特に SIE 科目のイタリア語は人気なので、日本にいる時から事前に申し込んでおくと思えます。 | | |
| 3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。 | | |
| 履修した授業科目名(留学先大学言語): | | 履修した授業科目名(日本語): |
| History of The Arts of Venice and Veneto | | ヴェネツィアとヴェネト州の美術史 |
| 科目設置学部・研究科 | SIE 科目 | |
| 履修期間 | 9 月から 12 月 | |
| 単位数 | 6 | |
| 本学での単位認定状況 | 2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) | |
| 授業形態 | 講義形式(チュートリアル, 講義形式等) | |
| 授業時間数 | 1 週間に 150 分が 1~2 回 | |
| 担当教授 | Myriam Pilutti Namer | |
| 授業内容 | ヴェネト州の建築や絵画に関する講義です。 | |
| 試験・課題など | 論述試験(期末試験) | |
| 感想を自由記入 | とても大変でした。論述の対象である課題図書が多く、また、授業内容も知らない専門単語が多かったです。私の場合は、日本で美術を勉強していた日本人留学生が同じアパートに住んでいたため、その子によく説明を聞きに行きました。ただ、難しいといっても、対策をしたら何とかかなりまし、力んで勉強しすぎたかなとも思っています。 | |

| | | |
|---|---|-----------------|
| 履修した授業科目名(留学先大学言語): | | 履修した授業科目名(日本語): |
| History of Italian Culture and Literature | | イタリア文化と文学の歴史 |
| 科目設置学部・研究科 | SIE 科目 | |
| 履修期間 | 9 月から 12 月 | |
| 単位数 | 6 | |
| 本学での単位認定状況 | 2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) | |
| 授業形態 | 講義(チュートリアル, 講義形式等) | |
| 授業時間数 | 1 週間に 150 分が 1 回 | |
| 担当教授 | Palandri Enrico | |
| 授業内容 | 授業前半は、ルネサンス期の文学や絵画についてグループ・プレゼンテーションが行われます。後半は、グループ・プレゼンテーションに触れつつ、教授が話を発展させ、教室全体での議論の時間になります。 | |
| 試験・課題など | グループ・プレゼンテーション(中間試験)、口頭試験(期末試験) | |
| 感想を自由記入 | 私はグループ・プレゼンテーションの直前まで盲腸で入院していたため、本当に大変でした。ただ、同じグループの子がプレゼンテーションの資料を多めに作ってくれたり、長めに話してくれたので、負担は最低限で済みました。期末の口頭試験は、普段授業に出ているだけで難しいと思います。 | |

| | |
|---------------------|---|
| 履修した授業科目名(留学先大学言語): | 履修した授業科目名(日本語): |
| Language Practice | イタリア語演習(後述の「イタリア語入門」とセットの科目です。2つの科目を合わせて、1つの科目として単位認定が行われます。試験は別です) |
| 科目設置学部・研究科 | SIE 科目 |
| 履修期間 | 9月から12月 |
| 単位数 | 6 |
| 本学での単位認定状況 | 1 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) |
| 授業形態 | 講義(チュートリアル, 講義形式等) |
| 授業時間数 | 1週間に150分が2回 |
| 担当教授 | Sarah Zilio |
| 授業内容 | 基本は教科書に沿って行われますが、途中のページも飛ばしながら、進度は早めに進んでいきます。初めは挨拶など易しい文法から学習が始まりますが、すぐに不規則活用の動詞など、難しくなっていきます。私は一番易しいクラスに所属していましたが、日本で全くイタリア語を勉強していなかったら、授業についていけなかったらうなと思いました。 |
| 試験・課題など | 課題は毎回。自由作文が数回(中間試験)、パソコンによる試験(期末試験) |
| 感想を自由記入 | 指導の丁寧な、明るい教授でした。授業進度は早く、会話の練習を中心とした授業で、課題もだんだんと増えていくので、辛いとすることも多かったです。しかし、イタリア語の語学力向上にはとても役に立ちました。この授業を受けてから、日常生活のイタリア語が分かるようになりました。 |

| | |
|---|---|
| 履修した授業科目名(留学先大学言語): | 履修した授業科目名(日本語): |
| Introduction to Italian Language [SIE028] | イタリア語入門 |
| 科目設置学部・研究科 | SIE 科目 |
| 履修期間 | 9月から12月 |
| 単位数 | 6 |
| 本学での単位認定状況 | 1 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい) |
| 授業形態 | 講義(チュートリアル, 講義形式等) |
| 授業時間数 | 1週間に150分が1~2回 |
| 担当教授 | Silvia Boero |
| 授業内容 | イタリア語の方言、移民の増加による言語の構造変化や、フェミニズムの観点から見たイタリア語について学びました。 |
| 試験・課題など | 課題は数回。論述試験(期末試験) |
| 感想を自由記入 | 移民が増えることで言語の構造が変わること、それを理由に「移民を排斥したい」と考える人がいること、「居住国の言語を話せるかどうか」という理由で差別が行われるという話が、とても印象的でした。特に、教授自身が幼少期にアメリカに移住し、差別や理不尽な言語学習の指導に遭った経験がある方で、その経験を授業中に話していただいたので、身近な問題として授業内容を捉えることができました。 |

卒業後の進路について

| |
|--|
| 1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記2以降は記入不要) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他: |
| 2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など |
| 3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。 |
| 4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 |
| 5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。 |
| 6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。 |
| 7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。 |

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

| | |
|----------------|---|
| 2018年 1月～3月 | 大学入試を終え、高校を卒業しました。 |
| 4月～7月 | 大学に入学しました。留学に向けて高い GPA を獲得するため、入学当初からきちんと授業に取り組んでいました。 |
| 8月～9月 | 夏休み中は、高校の時の英文法のテキストを 2 周やり直し、IELTS を夏休み中に 2 回受けました。また、明治大学主催の、英語の夏期講習に参加しました。単語の勉強はしませんでした。 |
| 10月～12月 | 3 回目の IELTS の受験をしました(スコアとしては、2 回目が 1 番高かったです)。その後、協定留学の書類を出願し、面接を受けました。12 月中には、協定留学の合格通知が来ていたと思います。また、GPA 維持のため、期末試験の対策を 1 か月前からしていました。 |
| 2019年 1月～3月 | ヴェネツィア大学の留学経験者に直接会って、話を聞かせていただきました。留学への不安を強く感じていた時期でした。気を紛らわせるためと、英語力向上のために、海外ドラマを英語字幕でひたすら見ていました。 |
| 4月～7月 | TOIEC を受験しました。また、この時期から English Café に参加したり、オンライン英会話を受け始めたり、NHK のラジオイタリア語講座を始めました(学部間共通外国語のイタリア語は、文学部は卒業単位に認定されないため、受けませんでした。留学する人は、まずは卒業単位をきっちりと取得することが、この時期には必要なのではないかと思います)。6 月には H.I.S でオープンチケットを購入し、アパートも 6 月頃に入居が決まっていたと思います。7 月上旬には、無事にビザの申請が終わりました。 |
| 8月～9月 | 留学に向けて、夏休み中はオンライン英会話と NHK のラジオイタリア語講座に特に力を入れていました。また、親の負担を極力減らしたかったので、塾講師のアルバイトで資金を貯めていました。ヴェネツィア留学経験者 2 名にアドバイスをいただきながら、荷造りし、9 月 1 日に出国しました。 |
| 10月～12月 | SIE 科目の授業を受けていました。また、空き時間には、ヴェネツィア大学の日本語学科の授業へ参加し(ヴェネツィア大学側から 9 月中にインターンの募集があります)、学生の会話の練習相手になるなど、お手伝いをしていました。ここでイタリア人の友人が沢山でき、よく映画に行ったり、ご飯を食べに行きました。 |
| 2020年 1月～3月 | 2 月 1 日に帰国。 |
| 4月～7月 | |
| 8月～9月 | |
| 10月～12月 | |

留学体験記(任意)

この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

【この留学先を選んだ理由】もともと、高校生の頃からイタリアに留学すると決めており、2018年度の協定校募集の中から、1年生でも応募できる留学先を選びました。

【この留学先のメリット】バディ制度が優れているので、イタリアに来る前から複数人のイタリア人と連絡を取ることができました。実際に、私はバディ制度で知り合ったイタリア人ととても仲良くなり、週末はお互いの家で料理をしたり、カフェに遊びに行ったりしました。また、日本語学科の授業にインターンという形で参加する中で、イタリア人の友人が沢山出来ました。日本語学科の学生は、日本人に対してとても興味があり、好意的なので、この留学先では友人を作りやすいと思います。

【この留学先のデメリット】先述した通り、大学側が学生に紹介したアパートが違法だったと分かって、何の対応も取らないなど、少し無責任なところがあります。

【留学に向けた準備】色々留学に向けて動いてはいましたが、①オンライン英会話②明治大学の英語の夏期講習③ヴェネツィア大学に留学していた先輩に話を聞かせていただいたこと④NHKのラジオイタリア語講座が、特に役に立ったと思います。

【留学生活の辛さ】留学生活は楽しいこともあります、とても大変です。不眠症になってしまった友人が数人いたり、中にはストレスで倒れて、救急搬送された人もいました。冬休みは、日本に一時帰国して、一か月ほど日本に滞在する人が沢山いました。私は半年の留学だったので、辛い時も「半年で帰れるから頑張ろう」と割り切って過ごせたのだろうと思います。留学生活では些細な生活の違いからストレスが溜まるので、イタリアでもできる趣味、ストレス解消法を持っていくと良いと思います。

【留学生活の良さ】自分の主義や意見を日常会話でもハッキリと言える、むしろ言わなければならないイタリアの環境は、私にはとても居心地が良かったです。また、ヴェネツィアでは、学生価格でレベルの高い美術館や教会を回れます。イタリアに来てから、キリスト教と芸術品の関係性について、深く考えることが増えました。元々宗教画や教会建築にはあまり興味がなかったのですが、今ではとても好きになりました。そして、そもそもヴェネツィアは街並みがとても綺麗なため、散歩をするだけで楽しいです。更に、外食費は日本の倍はしますが、イタリア料理は最高に美味しいです。ジェラートは安く大量に食べることができます。

【留学を志す後輩へのアドバイス】留学中に、「留学なんてしなければ良かった」と後悔する時は、誰にでも必ず来ます。それでも、もし留学に少しでも興味があり、親の経済的支援を受けられるのであれば、ぜひ早いうちに留学してほしいと思います。頼れるのが自分だけという状況下で、自分の思考の癖や、好き嫌い、価値観、将来に求めたいものが分かってくるからです。また、イタリアという、良く言えば大らか、悪く言えばずさんな国で、図太く、たくましくなれるので、内向的な性格の人にもイタリアは良いかもしれません。ぜひ英語のスピーキング力を磨いて(余力があればイタリア語での買い物の仕方だけ練習して)、ヴェネツィアに飛び立ってみてください。



